

事業所名 グループホーム日だまりハウス別館
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年 1月20日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 看護師、介護支援専門員
資格・経験 看護師(37年以上)、介護支援専門員
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 音楽療法士、介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>「主役は利用者様です。」を介護理念に、安心と尊厳が保たれ、その人らしい生活が出来ることを目的に、共同生活の中で自らの能力が最大限に発揮できるようにしている。入居者がその人らしく生活しようとする、「人としての当たり前の思い」に応える介護を目指し、人が自然に生きるための「援助と環境」作りを基本としていた。どんな方にも明るい表情で動じず、個々の言動に丁寧に対応されている職員の態度から、「個人の尊厳」を尊重していることが窺えた。</p> <p>「端の人を書はせる。」ことを重視し、入居者にも自分中心ではなく他の入居者への思いやりが抱けるよう、少しでも今までの自我・わがままをおさめ、丸い心・中庸の心が育ち、心が安らぐように努めている。入居者が自ら買い求めたお菓子を分け合い、和気藹々とする様子からも窺えた。職員にもこの心を大切に、お互いに次の勤務職員が困らないよう気配りすることが求められている。</p> <p>どこの入り口も施錠せず、近所の方が立ち寄りやすくしている。お茶を飲んで話をするなど近所付き合いを大切に、地域に開かれたホームを目指している。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が暮らしている生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>居間に隣接して畳の八畳間があり、入居者が今まで過ごしてきた家庭的な雰囲気大切にしながら、安全を第一に考慮した環境を提供することに努めている。また、高齢者の動線を考慮した工夫もなされている。椅子に座ってテレビを見る人、炬燵に寝ころがる人などそれぞれが自由な居場所を得ていた。</p> <p>代表者・管理者は頼れるお姉さんでもあり、何でも受け止めてくれる雰囲気もある。入居者は、集団の中で自分のペースを崩さずに自由に動き、自由に発言されていた。時には、入居者同士がお互いに理解できず、ぶつかりあい喧嘩になることもあるが、職員が意識して中に入り、トラブルには発展せずに上手く交わせるよう常に見守っている。</p> <p>心身ともに安定してもらうための配慮として、その人が今考えていることを否定せずにその方の要求に対応し、個別の生活ペースに合わせた役割を演じる介護支援をしていた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

四季折々の彩りを感じられる山々に囲まれたのどかな田園地帯にある。近くに郵便局やコンビニ、理美容店があり、生活圏も便利な所にある。建物の中は「木」を基調としており、木の香りを感じられ落ち着ける環境である。

代表者と管理者は認知症高齢者のグループホームとして、「家庭的な雰囲気のある施設と介護運営」を行っている。入居者個々の生活を大切に、家族の一員として迎入れており、入居者と職員が一体となって生活を楽しく姿勢が見られた。職員の結婚式に入居者も招待して一緒に写真に納まっており、入居者の人権を尊重していることの現れであると感じた。

入居者が精神的・肉体的に、規則に拘束・束縛されることなく、自由にその人らしく、ゆったりのおんびりと開放的に生活していることは、職員と入居者の会話や入居者それぞれが自然に自己主張をし、自由に振舞っている行動からも感じられた。

代表者はホームに隣接した家に住み、地域の方がボランティアとして踊りに来訪されたり、地域の方をホームの納涼祭に招待したりしている。地域に日だまり後援会ができており、花見に呼ばれたりお弁当を頂くなど、地域との連携がうまく取れている。

協力医療機関として中島病院や便文診療所・北歯科医院などがあり、定期受診や緊急時の対応もしてくれる。市の総合病院も受診でき、医療的にも安心できる環境にある。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

書類も十分に書かれていたが、アセスメント技術の更なる向上を目指されることを期待する。

認知症高齢者に対する「高い生活や介護技術」、「介護理念の実践」があり、現在もヘルパー1級の実務研修を受け入れている。今後も、町内会や婦人会・福祉志望の学生など地域福祉の向上にさらに寄与されることを期待する。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	病気の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>過去の生活歴や楽しみとなっていたことの経験に目を向け、個人を尊重しながら集団の中で役割がもてるように支援している。日常生活で出来ることは声かけをして、入居者が円滑な集団生活を送れるように配慮していた。食事の準備・後片付け・掃除・洗濯物干し・たたみなどや雑巾拭き、暖かい時は畑仕事を好きな人がしている。</p> <p>煎茶の好きな人が皆に煎茶をふるまったり、元教員の方がリードして「ことわざ」を言い合ったりしており、張り合いを持って過ごされていた。</p> <p>同じ事を繰り返しながら思い込みの世界におられる方には、その態度否定せず丁寧に話を聞き、寄り添う介護が出来ていた。また、個人のやりたいことや要求を阻害しないやり方でプライバシーの保護に努めていた。</p> <p>入居者の記録は施錠して保管している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日々から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>野菜や米の自給自足により、有機無農薬栽培による新鮮な食材を食卓に供給することが出来る。</p> <p>代表者および管理者は人と人とのつながりを大切にしており、介護に関すること以外にも職員の悩みなどを聞き、ストレスの軽減に努めている。また、他のグループホームの方と交替でお互いのホームに勤務し、相互評価することにより、それぞれの良い点をくみ上げてサービスの質の向上に努めている。</p> <p>管理者および職員は研修で新しい知見を得て自己研鑽に努めると共に、レポートを作成して報告することにより全職員に知識の共有化を図っている。</p> <p>現状に満足することなく、ヒヤリハットを積極的に書いて原因や対策を検討して大事に至ることを未然に防ぐなど、積極的に改善しているという姿勢がみられた。</p>		